

第4回国際セミナー：「日本・スウェーデンの経営行動比較」へのご案内

これまでに、ヨーデボリ大学(1999/10, 2001/9)、大阪経済大学(2000/10)で3回のセミナーを重ねて参りましたが、このたび第4回目のセミナーを開催することになりました。私どもは、スウェーデンと日本の研究者からなる共同研究グループですが、今回は、フランスの専門家も加えて、セミナーを開催します。関心をお持ちの多くの方にご参加いただきたく、ご案内申し上げます。

2003年10月1日

日時：2003年10月21日-23日

場所：広島大学学士会館

使用言語：主として英語

日程：10月19日 午後6時：歓迎レセプション

20日 三菱自動車水島製作所見学

21日 分科会

22日 午前：分科会。午後：全体会議

23日 全体会議。歓送会（午後のみ国際協力研究科大会議室）

分科会・全体会議はいずれも午前9時開始。

< 第4回国際セミナーの企画趣旨 >

共通主題：経営システムの特質とその社会的・制度的背景

趣旨：

グローバリゼーションの進展は、一方で政治経済社会の実態と我々の生活世界において、他方でそれを取り扱う研究・教育においても、アメリカ流の市場主義を事実上の世界標準にすることを迫りつつあるように見える。

しかし、個人間の競争と格差を増幅して社会を活性化しようという新自由主義的市場原理主義と異なった、社会編成原理、社会活性化の方法はないのだろうか。平等化と連帯の進展、全体の底上げ、これが社会を活性化するというもうひとつのシナリオを、北欧の社会建設の試みのうちに見いだすことが出来ないか、これが我々の関心である。

こうした関心に基づいて、市場万能主義のもっとも浸透しやすい、企業経営という経済活動のまっただ中に、この市場万能主義とひと味違った経営の行動様式が、どのような、社会的・制度的背景に支えられて可能となるのか、この点を明らかにする試みを深めたいと思うのである。

いずれの分野においても日本・スウェーデン比較をすると、その違いに我々は驚く。この違いの自覚それ自体が、すっかり慣れきっていて、当然だと思っていた日本のシステムの特質について、別の選択肢もあることを気づかせてくれる。とはいえ、それだけでは、その違いがどこからきているのか、どうすれば、その別の選択肢を日本で実現することが可能か、この点はなかなか明らかにならない。

そこで、比較によって、違いそれ自体を明らかにすると同時に、その違いがどこから来るか、この点を、具体的に明らかにする方法を我々は持たなければならない。この点で、それぞれの社会ではあまりにも当然視されて自覚化されない「思わざる前提」=常識があって、ここにこそ、ふたつの社会の仕組みが何故違うのかの鍵が潜んでいることが多い。この「思わざる前提」をどのようにして可視化するか。この点では、個別領域の違いが、どのような社会的・制度的背景の違いから来ているか、この点を明らかにする必要がある

と思われる。何故なら、個別領域の違いは、今我々が直接に対象にしている問題領域の外にある、他の事情の違いとの組み合わせによって、違っているだろうからである。我々のばあい、関心の焦点は、経営行動である。そこで経営というミクロシステムの違いが、ミクロシステムを超えたどのようなマクロシステムの違いから来るのかを明らかにしようというのである。

こうした観点から、全体会議では、一方で生産システムとそれを成立させる歴史的社会的背景について検討し、他方でグローバリゼーションのもとで、進展するヨーロッパでの企業合併を広い社会的文脈のなかで吟味する。第一分科会「環境と経営」では、企業の環境マネジメント、技術開発マネジメント、及び消費者行動を、その社会的背景との関連で、日本とスウェーデンについて、比較考察する。第二分科会「生産システムと労働条件」では、自動車、電機・電子製品の生産システムと作業組織・分業方式について、日本とスウェーデンの特質の踏み込んだ比較検討を行い、特にシステムを支える理論的背景と社会的・歴史的条件について、その共通点と相違点を明らかにする。

<プログラム>

全体会議報告1-2は22日。3-5は23日。

1. 経営慣行の社会的・歴史的前提としての労使関係

猿田正機：中京大学経営学部

田村豊：東邦学園大学経営学部

2. 連携への期待ーファイナンス市場と管理労働を結ぶリンクの検討

ステファン・テングブラッド：ヨーデボリ大学

リサーチ・インスティテュート

3. 企業合併の社会的・相乗的な構造形成作用

ステン・ヨンソン：ヨーデボリ大学

リサーチ・インスティテュート

4. 知的分業の歴史におけるトヨタ生産方式とウデバラ型生産方式(リフレクティブ・プロダクション)

ミシェル・フレスネ：フランス国立科学研究センター

国際自動車研究ネットワーク(GERPISA)代表

5. 標準化視点から見た、20世紀生産システムにおける構想と実行の分業関係の変遷:職人的生産・フォードシステム・トヨタシステム・トヨタ完結工程・セル生産・ウデバラ生産システムの比較

野原光：広島大学国際協力研究科

分科会報告

第1分科会：環境と経営

1. スウェーデン企業の技術開発マネジメント

サン・チェル・パーク：ヨーデボリ大学経営大学院

2. 日本における環境効率性測定と製品認証

貫隆夫：大東文化大学環境創造学部

3.資源循環型社会形成へのローカルな基盤

長岡延孝：同志社女子大学現代情報学部

4.環境経営の比較研究-----その制度的、社会的背景

里深文彦：社団法人生活経済政策研究所

5.IT環境下における消費者のインターネットショッピング行動に関する日本・スウェーデンの比較研究

吉井康夫：大阪経済大学経営学部

第2分科会：生産システムと労働条件 1-5は21日。6-7は22日。

1.生産システムの再構築：生産システム、コントロールシステム、学習戦略におけるフレキシビリティ

レナルト・ニルソン：ヨーデボリ大学教育学部

2.スウェーデン型生産システムの射程

ラーシュ・メドボ：チャルマーズ工科大学ロジスティックス学部

3.トラック組み立てシステムの歴史と未来

トマス・エングストロム：チャルマーズ工科大学ロジスティックス学部

4.自動車組み立てにおける流れ生産方式と定置式生産方式の比較評価

トマス・エングストロム、ラーシュ・メドボ

5.製造職場における作業者と技術者の分業：直接作業と間接作業、通常の作業と通常でない作業における分業

(1)中岡哲郎仮説に基づく分析枠組み：

野原光：広島大学国際協力研究科

(2)ケース研究

乗用車の生産ライン：野原光

トラックとバスの生産ライン

浅生卯一：東邦学園大学経営学部

自動車部品企業と電子部品セル生産のライン

藤田栄史：名古屋市立大学人文社会学部

6.製品開発過程における時間構造と行動

ステン・ヨンソン

7.トヨタとボルボの賃金システムの比較

猿田正機：中京大学経営学部

主催責任者：ステン・ヨンソン

(ヨーデボリ大学・リサーチ・インスティテュート)

野原光(広島大学・大学院国際協力研究科)

(第四回実行委員会現地責任者)

註：ご参加いただけるばあいには、準備の都合がありますので、下記までご連絡下さい。

野原光：e-mail; nohara@law.hiroshima-u.ac.jp

fax;0824-24-6933